

警 察 署 協 議 会 議 事 録

協 議 会 名	令和6年第1回 宮城県古川警察署協議会
開 催 日 時	令和6年2月28日(水) 午後2時から午後3時20分までの間
開 催 場 所	宮城県古川警察署 大会議室
出 席 者 等	<p>1 協議会委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席委員～宮崎英行会長、氏家弘子副会長、瀧川まゆみ委員、本宮言委員、畠山光平委員、新山明美委員 ・ 欠席委員～及川みや子委員、秀岳芳行委員 <p>2 警察署側</p> <p>署長、副署長、副参事会計課長事務取扱、警務課長、留置管理課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長、警務課員</p>
議 事 概 要	別紙のとおり
備 考	

別 紙

1 報告事項等

(1) 管内治安情勢等について（署長）

署長から、令和5年中の管内の刑法犯認知・検挙状況、特別法犯検挙状況、特殊詐欺認知状況、交通事故発生状況について説明がなされた。

(2) 質疑応答、意見要望等

委員：特殊詐欺被害防止のための防災無線をよく耳にするようになった。

メディアによる報道よりも、防災無線で広報することで、身近な発生状況をタイムリーに知ることができ、実感が湧き防犯意識が高まる。

委員：現在、車両への取付率が約7割といわれているドライブレコーダーだが、交通事故の早期解決や事故抑止のためにも、交通事故防止の各種啓発活動とともにドライブレコーダーの普及も必要だと感じる。

委員：古川第二小学校付近の通学路となっている市道において、速度超過の車両が散見される。

新入学児童の安全のためにも、登下校時のパトロールを実施してほしい。

交通課長：登下校時の警戒活動、取締り活動を実施するとともに、交通事故防止の啓発活動を実施する。

委員：特殊詐欺の発生状況を聞き、倍増している被害額に驚いた。

このような発生状況では、地区の高齢者方を訪問した際に、携帯電話からの架電には警戒してなかなか応答してくれなかったのも納得できる。

特殊詐欺被害は注意をしても被害に遭ってしまうので、今後も様々な機会に啓発活動をして被害抑止に貢献したい。

委員：古川駅付近において、自転車の乗り方や公園利用者の自転車の駐車方法から、交通事故が起きるのでないかと心配している。

自転車のヘルメットの装着率もまだまだ高くないので、警察と協力して自転車事故防止に対する啓発活動をしたい。

会長：知人がNISA名目の投資詐欺の被害に遭った。

手続き名目で個人情報などを入力してしまった挙げ句、スマートフォンなどを不正に操作され、GPS情報などにも影響があったようだ。

時代を反映するような新たな手口があり、スマートフォンに頼りすぎるのも怖いと感じた。

署長：交通事故防止、特殊詐欺被害防止のための各種啓発活動を実施していく。
投資詐欺については、相手から指示されてアプリをインストールさせられ遠隔操作された可能性がある。
インストールした場合は、スマートフォンを初期化するしかない。

(3) 110番通報受理システムについて

地域課長から、

ア 110番の歴史

イ 110番通報受理システム

通報受理から指令までのレスポンスタイムなど

ウ 110番通報の受理件数

管内及び県内の受理状況

エ 110番映像通報システム

令和5年10月からのシステムの利用の流れ

オ 広報活動の状況

について説明がなされた。

(4) 質疑応答、意見要望等

委員：110番映像受理システムについては、通報から映像の送信までをした場合に相当な時間を要するのではないか。

地域課長：さほど時間は要しない。

通常 of 通報の際、受理者は、迅速かつ的確に通報内容を聴取し、聴取事項を通報受理システムに落とし込み、指令担当者が時期を失することなく指令する。

全ての通報で映像の取得を求めるわけではなく、指令室の判断で映像送信を求める場合は、通報者に承諾を得たうえ、ワンタイムURLをショートメッセージで送信する。

その後、通報者が留意事項などを確認し、システムにログインすることでカメラ機能が起動し、撮影、送信ができるようになる。

通信料などは負担をかけるが、映像送信まではさほど時間は要しない。

委員：外国人による110番通報の場合は、通訳はどうしているのか。

地域課長：警察本部に勤務する通訳官や民間の通訳人を通じて対応している。

委員：110番通報の際に、通報場所がわからない場合があるが、携帯電話のGPS機能などにより位置を特定できるのか。

地域課長：携帯電話のGPS機能は概ねの位置であるため、110番受理担当者が付

近の建物などを聴取して現場を特定している。

副署長：県境付近においての110番の場合は、隣接県の110番指令室に通じる場合があるが、位置を特定して、担当する県警の指令室に通じる。

会長：救急の際の電話番号は119番であるが、119番通報にいたらない場合の専用ダイヤルがあると聞いた。

警察では、そのような専用ダイヤルがあるのか。

また、東日本大震災の際に110番通報は通じていたのか。

署長：警察では、相談ダイヤルとして「#9110」があるので、110番にいたらない場合などはそちらを活用してほしい。

震災当時は、回線が集中し110番通報が通じなかったことから、被災者が警察施設やパトカーを目掛けて直接通報していた。

会長：交通事故で110番通報した際に、怪我の有無と車両が走行可能かを確認されたことがあり、その後、直接警察署に行つてほしいと指示を受けた。

署長：車両の壊れや怪我がなく、警察署まで本人達が向かうことができる場合には、そのような指示をして、警察署で事故処理をする場合もある。

(5) 速度取締り指針について

交通課長から、

ア 古川警察署の速度取締り重点

イ 管内における交通事故実態など

ウ 速度違反以外の取締りや警戒活動

について説明がなされた。

(6) 質疑応答、意見要望等

会長：通勤、通学時間帯などは速度超過の車両が散見されるが、どのような取締りを行っているのか。

交通課長：当署員だけでなく、いわゆる覆面パトカーに乗車した交通機動隊員と連携して、交通指導取締りを実施している。

委員：宮城県は、信号機のない横断歩道での停止率がワースト1位と聞いたことがあるが、現状はどうか。

また、飲酒運転や携帯電話使用違反などの現状はどうか。

交通課長：2020年に宮城県がワースト1位であった。

その後、横断歩行者妨害の取締りの強化、ルール、マナーに関する啓発活動により、意識の浸透が図られ、2021年以降は、停止率も50%まで向上している。

飲酒運転については、交通事故による発覚、飲酒検問や交通指導取締りによる発覚が多く、未だに根絶までには至っていない。

携帯電話機の違反についても、同様である。

継続した交通指導取締り、広報活動を実施していく。

委員：高齢ドライバーの運転方法や高齢者が関係する交通事故が心配である。

警察では、そのような高齢者にどのような啓発活動をしているのか。

交通課長：高齢者の集まる会合時に、講話を実施して啓発活動をしている。

その他にも、複数回交通事故を起こしている高齢者宅に個別訪問して、運転免許証の返納について家族を交えて広報している。

2 事務連絡

次回警察署協議会は、令和6年6月下旬に開催予定。